

麻雀のススメ

文責：itoken

酒・タバコ・麻雀。墮落した大学生の三大欲求ともいえるものだが、これらをたしなむ吉田寮生の数は多い。わたし自身はタバコは大嫌いなのでなじみがないが、他のふたつには少なからずお世話になっている。酒に関してはほとんどの大学生が多かれ少なかれ飲むことになると思うので、わざわざここであれこれ述べる必要はないだろう。ここでは、麻雀について少し語ってみようと思う。

最近の学生は麻雀をしなくなった、ということのを両親や（京大以外の）友人から聞くことがあるが、京大、特に吉田寮においてはいまだに麻雀は熱いブームである。夜中でも起きている人はたくさんいるのでちょっとがんばればメンツなどすぐ集まるし、麻雀牌や麻雀卓もきちんとあるので、麻雀をするには最適の環境である。さびしい下宿生などは雀荘などに行くのだろうが、あそこはタバコくさいだろう（行ったことはないが）し、向こうだってビジネスでやってるわけだから当然場代もとられる。しかも打つ相手は顔も知らないおっさんだったりするわけだからこわくてしょうがない。一方、吉田寮ではいつも顔を合わせている連中と打つことができるのだから気がラクだし、麻雀はゼロ・サムゲームなので、場代がない以上期待的にマイナスになることはない。

わたしは1回生の3月（2回生になる直前）に麻雀を覚えた。それまではまったくルールがわからず、大部屋で他の寮生がジャラジャラやっている隣でグースカ眠っていた。といっても、麻雀自体には嫌悪感はなかったし、あれだけみんなが夢中になるんだからきっと楽しいはずだ、と思っていた。「いつか必ず覚えるから」と周りには言っていたし、打つ以上はきちんとお金を賭けてやるということも宣言していた。3月にサークルの先輩の家で麻雀を教わり、直後から点3で打っていきなり1着をとってしまった。まだ役も鳴きも知らず、メンゼンで（リーチをかけて）4メンツ1雀頭を揃えるかチートイツを作るかしか和了り方を知らなかった時代のことである。

ビギナーズ・ラック的なものに気をよくして寮でも打つようになったが、しばらくして「役を知らないということは麻雀をやるうえで非常に不利なのではないか」ということに気づき、本を読んで勉強した。さすがにチートイツ以外の役を知らないと何かと不便である。2回生になる頃には鳴きも覚え（そしてそこで少し弱くなるのである）、2回生がわりとヒマだったこともあり、この1年間で自分でもビックリするほど麻雀を打った。麻雀という娯楽はすごいと思う。かりにトランプやウノで8時間過ごせといわれたらちょっと難しいと思わざるをえないが、麻雀をやっていると時間が経つなどあつというまでである（そして、あつというまに数年間が過ぎ5回生以上になる人が大量に生み出されるのである）。

吉田寮での麻雀は主に「われめ」というルールで行われる。サイコロを振って山がわかれたところにいる人の点数の収支が2倍になるというルールで、ドラ表示牌も最初から2枚存在する。つまりはインフレルールなのである。吉田寮以外の友人にはこのルールを嫌う人が大変多いが、さっさとトビを出して気持ちを切り替えて次、という感じでサクサク進めるあたり、わたしは「われめ」ルールが好きである。

レートはまちまちだが、ウマが10・30の点2か点3が「基本」である。この「基本」というのがくせもので、「基本」に飽き足りない人たちは点5・点10・点20などを打つわけである。わたしはこれまで高レート麻雀で負けたことはなかったが、先日点20で45,800円負けてしまい、大金を負けた人がよくやるように「もう賭け麻雀はしません」の貼り紙を出した。が、次の日にはもうやっていた。麻雀は楽しい。